

軟式野球実施要項

1. 日 時 11月10日(土)～12日(月)
2. 会 場 立川運動公園野球場、ネッツ多摩昭島スタジアム、福生市営福生野球場、大井埠頭中央海浜公園軟式野球場、奥戸野球場
3. 主 管 公益財団法人東京都軟式野球連盟

4. チーム編成

監督1名。選手20名以内を同一都道府県以下の単位に居住するもので構成し、各都道府県2チームまで参加することを認める。なお、コーチ、マネージャー、スコアラーを1名ずつ別途に加えることができる。主将は選手とする。また、監督、コーチ、マネージャー、スコアラーも選手を兼ねることができる。選手として兼ねる場合は、選手数はそれも含めて20名以内とする。

5. 参加資格

- (1) 本大会の参加資格は、下記の通りとする。但し各都道府県選手団役員(団長、副団長、総監督・総務)、監督、コーチ、マネージャー、スコアラーはこの限りではない。
 - ①1983(昭和58)年4月2日から2003(平成15)年4月1日までに出生した者。
 - ②2018(平成30)年5月1日からひきつづき当該都道府県に居住する者。
 - ③全日制高等学校の生徒は参加対象としない。
 - ④定時制または通信制高等学校、高等専門学校、各種学校の生徒は一般青年として参加できる。
- (2) 日本青年団協議会正会員または各都道府県の大会窓口からの選出または推薦を受けた者。
- (3) 参加者は医師の健康診断を受け、健康であることが証明された者とする。
- (4) 過去において、次にかかげる大会に出場した選手の出場は認めない。
 - (ア) 天皇賜杯全日本大会
 - (イ) 国民体育大会軟式野球競技(高等学校軟式野球競技を除く)
- (5) 国内外で職業競技者(演技者・技術者)としての活動実績を有する者は本大会に参加できない。
- (6) 全日本大学軟式野球協会に加盟する者は本大会に参加できない。
- (7) 無資格の選手が参加していることが相手チーム、大会本部、審判いずれかによって発見されたときは、当該チーム全員を失格とする。
 - ①試合中に発見されたときは、その試合を没収試合とする。
 - ②試合後に発見されたときは、勝っていた場合も次の試合に進めない。
 - ③いずれの場合も前の試合結果には及ばない。

6. オーバーエイジ枠

参加資格に、オーバーエイジ枠(以下、OA(1983(昭和58)年4月1日より前に出生した者の参加を一部認める))を設ける。OAが参加する場合は登録選手のうち3名以内とする。

7. 参加申込

締切期日をすぎた後の申込および変更は一切受け付けない。ただし、以下の場合はその限りではない。

- (1) 本人が病気、けがで入院するなど参加不可能の場合、医師の診断書を、10月20日(土)必着で大会本部に提出すれば参加登録は抹消する。なお、病気、けがなどの理由で参加登録抹消者が発生し、チーム全員の参加が不可能となった場合は、チーム全員の参加登録を取り消す。
- (2) 団体競技種目で参加登録抹消者(理由に関わらず)が発生した場合、参加者の入れ替えを認める。また、入れ替え登録は10月20日(土)必着で大会本部へ所定の様式にて郵送で申請し、なおかつ種目別監督会議での報告を義務とする。入れ替え後の氏名はプログラムには記載されない。なお、書類に不備がある場合は入替登録を認めない。なお、入れ替え登録した参加者の大会参加費及び大会運営費、保険料は発生しないものとする。

8. 競技方法

- (1) 今大会の競技は(公財)全日本軟式野球連盟現行規則に準じて行う。

- ベンチ入りできるメンバーは監督、コーチ、選手、マネージャー、スコアラーの他にチーム代表者1名を加えることができる。なお、監督、コーチ、選手以外のユニフォーム着用は認めない。
- (2) ベンチは組み合わせ番号の若い方を一塁側として、先攻・後攻はじゃんけんにて行う。
- (3) 試合は7イニングとし、時間は90分とする。延長戦は原則として行わず、7回終了時において同点の場合は特別方式を最長2イニングまで行い、それでも同点の場合は抽選によって勝敗を決定する。ただし、決勝戦は7イニングを行い同点の場合は、延長戦は9回までとし、なお同点の場合は主催者の判断で特別方式を用いる場合もある。特別方式では継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者、2塁3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち無死満塁の状態から試合を行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- <時間制限の解釈について> (6回裏が終了して先攻チームが1点をリードしている場合)
- ・6回裏が始まる時に1時間30分を過ぎていて、攻撃が始まり2点が入った場合はその時点で終了。
 - ・6回裏が始まる時に1時間30分以前に攻撃が始まって2点を入れても制限時間内に攻撃が始まったという理由で試合終了にはならない(作為的なタイムを防ぐため)。
- 但し、得点が入らないまま制限時間を過ぎたらその回で終了となる。
- (4) コールドゲームについて
- 得点差によるもの・・・5回以降、7点差とする。
- 降雨、日没によるもの・・・5回以降審判が中止した時点で正式試合として成立する。
- (5) 降雨、日没などで、5回以前90分未満で中止となった場合は、翌日継続試合とする。
- (6) 試合前のシートノックについては、一日目は各チーム第1試合目のみ、二日目は第1試合のみ、最終日は決勝戦で、時間は5分間を原則として実施するが、各競技場の状況等によっては省略することがある。
- (7) メンバー表は、監督会議において各チームに一冊配付する。当日第1試合のチームは試合開始30分前、第1試合以降のチームは前試合の4回終了時に本部に4部、2日目第3試合(準決勝)のメンバー表は、第2試合終了後15分後に提出すること。なお、決勝戦は5部本部に提出すること。
- (8) 試合球は公認M号(ケンコー)を本部で用意する。その他の備品は各チームで用意すること。
- (9) ユニフォーム(帽子・ストッキングも含む)はチーム全員同色同型とし、スパイクを使用すること。ストレートパンツも着用可能とする。
- (10) 背番号は、プログラムに登録された0番から99番までとし、監督30番、主将10番とする。登録された背番号の変更はできない。なお、ユニフォームの左袖に都道府県名を必ずつけること(企業名、大学名の入ったユニフォームでは出場できない)。ノースリーブのユニフォームの場合は、アンダーシャツの左袖に都道府県名をつけること。
- (11) 金属バット、ハイコンバット及び捕手のマスクは、連盟公認(J・S・B・B)のマーク入りのものを使用すること。
- (12) 打者、次打者、走者及びベースコーチは、S・Gマークのついた連盟公認(J・S・B・B)ヘルメットを着用すること。
- (13) 捕手は、プロテクター、レガース、マスク(スロートガード付)、捕手用ヘルメット、フェールカップを着用すること。
- (14) 雨天時の場合の対応は以下の通りとする。
- ①雨天時の対応は、主催者が決定する。但し、主催者判断で監督会議を緊急開催する場合もある。
 - ②雨天時には球場を移動するチームが出てくる場合があることを了承すること。
 - ③全試合を消化できない場合でも、参加費・大会運営費・保険料は返却しない。

9. 表彰

- (1) 表彰は優勝、準優勝、第3位(2)のチームに行う。
- (2) 第3位チームには、日曜日の準決勝が終了後各会場で賞状と第3位盾ならびに登録メンバー全員に銅メダルを授与し、表彰する。
- (3) 準優勝チームには賞状、準優勝楯並びに登録メンバー全員に銀メダルを授与し、表彰する。
- (4) 優勝チームには賞状、優勝旗と優勝カップ並びに登録メンバー全員に金メダルを授与し、表

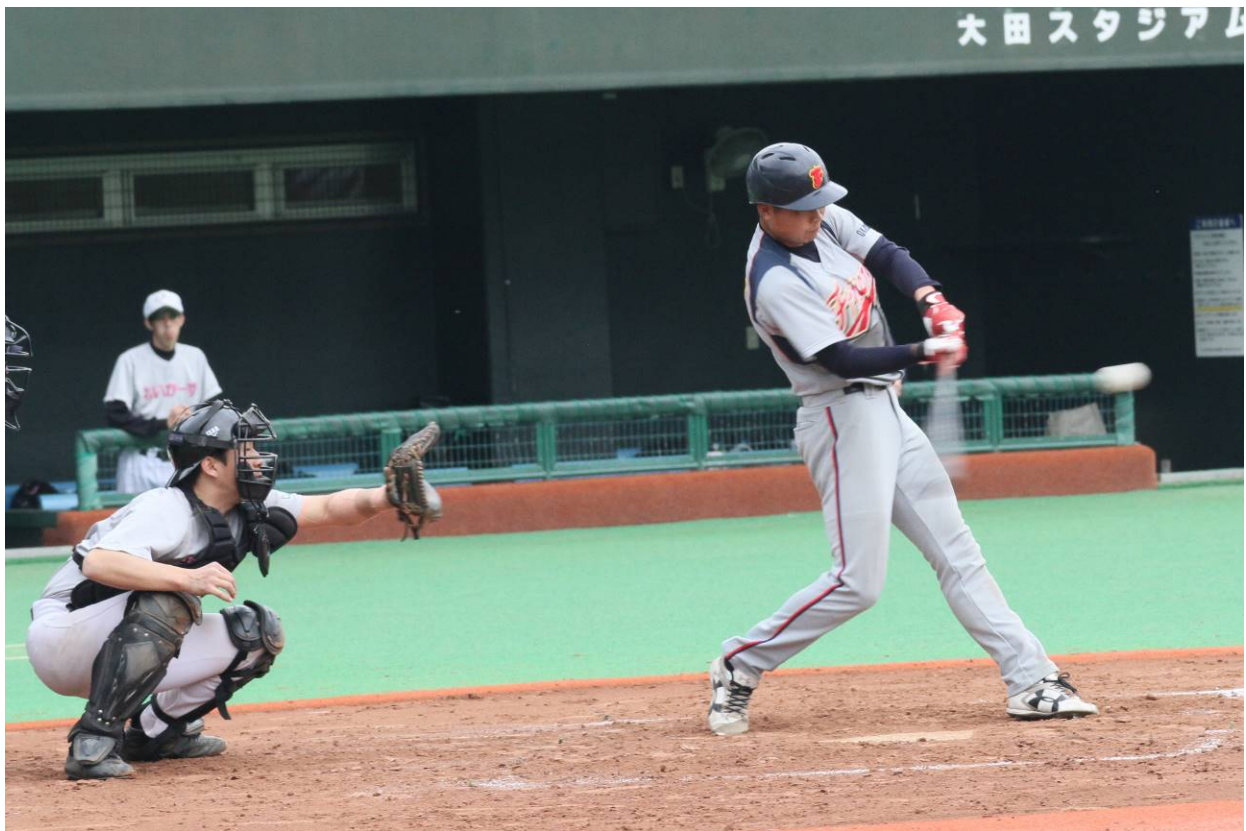
彰する。

10. 東日本大震災に伴う参加資格の特例について

震災による被害状況及び影響等を考慮し、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県
の6県を本特例の適用対象となる被災地域県（以下、「特例対象県」）とし、前記参加資格を満た
した上で、当該被災地域県からの避難等により、2011（平成23）年3月11日以降移動せざるを得
なかった場合、避難前に在住していた県から参加することができる。ただしこの場合、2011（平
成23）年3月11日時点において、当該特例対象県内に居住していた者であることを当該県選手団
長が証明する書類を提出することを条件とする。なお、書式については別途指定する。

11. その他

- (1) 基準要項、体育の部要項に定めるところによる。
- (2) 参加者の宿舎は、本部が指定した宿泊施設とする。またその決定は、本部が別途行う。各都
道府県や出場チームから直接旅館に申し込むことや指定以外の宿舎に宿泊することは認めない。
- (3) 記載のない内容については主催者で判断する。



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター